

デイサービス 日和

第4回運営推進会議議事録

管理者 滝 真二

下記要領にて第4回運営推進会議を行いましたので、ご報告いたします。

記

1. 日 時：平成30年3月16日（金）14:00～15:00
2. 場 所：デイサービス 日和 デイルーム
3. 参加者：計 7 名
内訳 管理者 滝 真二 生活相談員 安藤 真由美
民生委員 2名
利用者代表 1名
江南中部地域包括支援センター 1名
地域代表 1名

4. 議事録

(1) 委員長挨拶

管理者より、各委員へご出席のお礼の挨拶を行った。

(2) 出席者紹介

管理者より、どのような立場の方なのか等、各委員の紹介を行った。

(3) 運営状況報告

管理者より、運営状況の報告を行った。

1、登録者と利用状況（別紙2）

6ヵ月間の登録者人数と介護度の報告。お試し利用者、新規利用者、退所者、平均介護度の報告。男女比は男性が2割。退所の理由は、入所に向けてのサービス事業所変更や、金銭的な問題から、利用料免除が受けられる社会福祉法人へ変更をされたため、など。

2、事業所の理念 ～ 5、地域交流（別紙3）

6、活動について（別紙4～6）

(1) 歩行訓練を兼ねた外出

年間行事計画に基づき、目的を持って外出をし、歩いて頂いている。地域の資源も十分活用をしている。

昭和写真展では、モノクロ写真の嫁入りの様子や菓子巻きの写真を懐かしそうに観賞をされていた。近くの永正寺の話題のお釈迦様の特別観覧も喜ばれた。

(2) ボランティアの方による活動

習字、手芸、工作、絵手紙教室は定期的に行っている。初めは消極的であった絵手紙も、回数を重ねるごとに意欲的になっている。自分で文章を書きたくない方も、文章を考えて

下書きをして、自分で書く姿が見られるようになった。

作品は毎年2月に江森町にあるギャラリー音彩さんで展示をしている。

(3) 季節のイベント

運動会では道具作りから利用者に行ってもらった。パン食い競争では、様々なパンをぶら下げ、大変好評であった。

さつま芋の収穫をし、干し芋作りを行った。作り方については利用者のほうがよく知っており、生き活きとした言動が見られた活動であった。

(4) 個別機能訓練Ⅱ

心身機能への働きかけだけではなく、日常生活動作や調理、掃除などの活動、役割、社会参加への働きかけを目的に行っている。

配食弁当を電子レンジで温める訓練や、お米の計測、ケアハウスにて自分で食堂に行き、食事の受け取り、下膳が出来る訓練を行っている。

娘様と一緒に買物に行けるように、シルバーカーでの歩行訓練も行っている。

7、ご家族の悩み

主介護者が、妻、夫、娘、息子であるが、続柄によっても、悩みは様々である。

プライドが高い性格だから言いにくい、などの思いこみや先入観を持たずに、年月が経てば変わっている事もあるため、色々挑戦する事も大切だと家族にアドバイスをしている。

9、本人の悩み

「夫が私を痴呆と言い、カッとなって怒ったり叩いたりする」という悩みがある。もともと、夫の暴力を友人に話した事から、市役所に通報があり、包括支援センターも介入し、デイサービスの利用へと至った案件。デイサービス利用後も夫の暴力があったため、現在も関係各所、家族と話し合いを行っている。

10、ヒヤリハットとその対策 別紙(1)(2)

成田山参拝時に、目を離した際に利用者が一人でトイレに行っていた件は、成田山には階段もあり、転落すれば命にかかわる事故につながった可能性もあるため、重大なヒヤリハットとして再認識をした。

11、感染予防の取り組み 別紙(3)(4)

到着後、イソジンでのうがい、手洗いと、トイレ後のアルコール消毒を徹底している。

冬場のインフルエンザ、ノロウィルスの流行前に、インフルエンザ予防接種の確認と感染時の対応についてのお手紙を利用者、家族、居宅介護支援事業所に配布をする。

次亜塩素酸を放出して、ウィルスを除去するジアイーノを購入した。この冬は3名の家族がインフルエンザに感染したものの、利用者は一人も感染しなかった。

(4) 今後の活動について

ボランティアによる定期的な活動とお花見、餃子、田楽パーティ、流し素麺を行う予定。

(5) 質疑・応答など

- ・民生委員 野木森様より→やはり女性の利用者の方が多いですね。
→男性利用者の案件の相談はほとんどなく、団塊の世代となるとますます男性利用者の利用は困難になると予想される。
- ・江南中部包括支援センター 蟹江様より→ギャラリー音彩のオーナーとはどのようなつながりがあるか。
→毎年作品展の会場として依頼をしているだけではなく、ボランティアの方もご紹介して頂いている。
- ・民生委員 野木森様より→歩く機会を多く提供しているが、外出は大変ではないか。
→家ではなかなか歩く機会もなく、冬場の筋力低下もあるため、出来るだけ歩行訓練を行っている。外に出ると予想が出来ない行動をされる方もいるため、細心の注意を払っている。しかし、大変さはあっても、利用者様の表情が良いので、職員の癒しにもなっている。
- ・民生委員 野木森様より→個々に関わってくれるから、皆さんが楽しく利用が出来ていると思う。出来る事を取り上げない事は大事ですね。
→その人、その人で出来る事も違うので、職員が個々の残存能力や性格をしっかり読み取って工夫をしている。
- ・民生委員 荒田様より→作品展を観に行かせてもらった。写経の上手な人に感心した。
→写経の上手な方は95歳の方。その年齢での集中力は素晴らしいので、書道教室の先生と協力し、また作品展を通して活力にして頂きたい。
- ・地域代表 後藤様より→毎年、私のギャラリーを使って作品展を行って頂いている。今年もたくさんの方が見に来られていた。ご家族も安心してお預けされていると思う。
- ・利用者代表 佐々木様→私ももう、92歳です。なんとかここに来られて、楽しんでます。
- ・地域包括支援センター 蟹江様→高屋町は、なかなか地域サロンなどが立ちあがらず、難しい。
→民生委員様方、地域代表様から、「もともとの高屋町住民の気質からして、新しい事への立ち上げはなかなか実行できていないのは現状で、新しい住宅も多く建っており、転居して来た方も多いことからまとまりにくさはあるかもしれない」という意見が出た。

本日の会議開催の謝辞を述べ、次回開催の協力、今後の協力をお願いし、閉会した。

以 上